

# コロナ禍におけるコミュニケーションの変容について

小林大夢（札幌国際大学スポーツ指導学科） 指導教員 大鐘秀峰

キーワード：コロナ禍 ソーシャルディスタンス 対面 マスク コミュニケーション

## 【はじめに】

私は 2019 年から流行し始めたコロナウイルスが対面コミュニケーションにある弊害をもたらしていると感じる。

私は昔からさまざまな人との交友関係を築くことができると思っていたのだが、このコロナウイルスが流行し始めてからというもの、新たな交友関係を築くことが難しくなったと感じる。

そのように感じた理由はコロナウイルスが流行し始めた時、世界中で外出の自粛が余儀なくされたことにあると考える。その際、物理的に距離を保ち感染拡大防止のためにソーシャルディスタンスという名目のもと遠隔というものやマスクと言う顔を半分ほど覆うものの影響を強く感じる。

そこで私は近年インターネットが普及し遠隔というもので物理的に距離を保ちながらコミュニケーションを行うことやマスクをつけながら相手の表情が目元しか見えない状態で会話などを行うことが対面でコミュニケーションを行う際の会話をする際の難しさが増したと感じている人が沢山いるのではないかと思い、研究を行うこととした。

## 【方法】

調査方法は私の通っている札幌国際大学の男女あわせて計 27 名にアンケート調査を行うこととする。

アンケートの内容としてはコミュニケーションが得意な者、不得意な者で分け、マスクをつけることで正の感情になったのか負の感情になったのか、そこで出た回答を元に今後の対面コミュニケーションの重要性を示すものとする。

また、アンケート調査で生じた問題点などの打開策を考えるものとし、アンケート調査で情報が不足している箇所は既存の文献を参考にするものとする。

## 【結果】

アンケートではマスクをつけることは対面コミュニケーションを行う際、正と負のどちらの感情になったのかを調査した。内容としてはマスクは顔を半分ほど覆う物としてコミュニケーションの大切な表情を読み取るということが難しくなったのではないか。また、逆にマスクをつけるという顔を隠すという行為によって匿名性が生まれるのではないかというものが大まかな内容であった。

アンケート調査結果からマスクをつけることで「人前に立ちやすくなった」と答える人や「冗談が通じない」と答える人が多くいた。マスクは対面コミュニケーションに正と負の感情をもたらし、大きな影響を与えていることが分かった。

まず、対面コミュニケーションを行う際相手に”伝える”ということが大前提となるのだが、重要なのは3つあり、ひとつは言葉である。言葉というものは相手がある場所に居なくても伝えることができるメールというもののや、電話。さらには遠隔ビデオで行う会話なのだが、まずはこの言葉が重要なのである。

言葉だけでは相手に伝わらないこともある。例えば、「はい、だいじょうぶです」というこの文面だけで肯定的な返事なのか否定的な返事なのか全く見当も付かないのである。ここでどちらの返事なのかを見分ける為に顔を見ることになる。このとき初めて表情の重要性がわかるのだが、表情が笑っているのか、少し怒っているのかその情報を付け足すことができるのである。

さらにもうひとつ、それはボディランゲージである。これは身振り手振りなどの体を使った表現なのだがこの3つが重要になる。コミュニケーションが得意な人たちはこの3つを使い分けているのだが、コミュニケーションが苦手と答える人々は3つの中で表情を読み取る力が不足していると私は考える。

しかし、マスクをつけることによりコミュニケーションが得意な人は負の感情が現れ、不得意と答えた人は正の感情が現れていた。得意な人たちに負の感情が現れた理由は「表情が読み取りづらくなった」と答える人が多かった。逆に不得意と答えた人たちに正の感情が現れた理由は「表情をみせなくていいので楽」「声のトーンや身振り手振りでも表現できるからマスクをつけることに問題はない」と答える人が多かった。

## 【考察】

なぜこのような結果が出たのかということ、マスクというもので対面における重要な3つのポイントが表情が見えなくなるということにより、2つのポイントになったということが大きな要因であると考えられる。

意識しなくても良い部分が出てきたことにより負の感情だけではなく正の感情がでたのではないかと私は考える。

しかし、このコミュニケーション方法にはデメリットが多く含まれていると感じる。マスクをつけることが今は当たり前になってきている時代ならではの問題で人前でマスクを外すことができないということである。この問題はコロナが収まっても続くのではないかと懸念されている。また顔を隠すという行為でマスクを着用し続けると社交不安症になるかもしれないということも懸念されている。

実際、社交不安症の緩和させる社会復帰行為としてマスクをつけるということをしらせる。これは人前に立つと緊張するから顔をかくすというものなのだが、マスクを外すことが緊張するきっかけを作り出していることが大きな問題であると私は考える。

以上のことから、今後の対面コミュニケーションのあり方を考えるべきではないのだろうか。

## 【おわりに】

いまだにコロナは進行しているが、屋外でもマスクを外すことは悪いことだと考えられているが、今後はコミュニケーションの必要性を考えると、積極的にマスクを外せる機会を設ける必要があるのではないかと考えることができるのではないかと。